

肘歴通信 第廿七號

「昔にあった旅館」のこと(其之参)

(今回も敬称は省略しております。ご容赦ください)

温泉街に壮然と立ち並ぶ旅館群。

廃業後も肘折に居る家も多いのが肘折の珍しいところです。

・旅館 高美屋 (高見館)

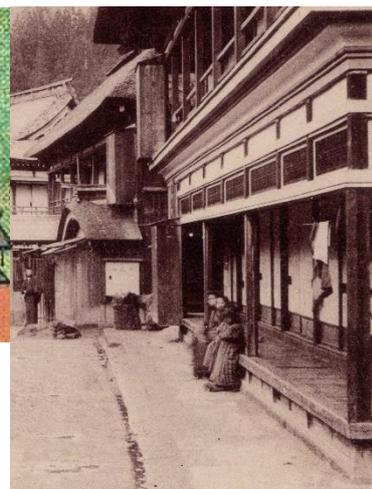
時期：江戸初期～昭和 14 年

廃業理由：不明

場所：現・カネヤマ商店～大友屋半分

人別：高山 武右衛門

備考：江戸時代、新庄藩主戸沢公一行が宿泊した旅館四軒の一つ。常に肘折温泉の要職(惣代)に就き、**秋葉山の石碑建立・薬師堂本尊堂入・新庄藩への各種請願**に、その名が多々残っている。内湯には、現在の**松屋名物「洞窟湯」**を持ち、当時は高美屋館内(カネヤマ商店裏の入口)から入ることが出来た。廃業後、村山市の大石氏に買い取られ一時的に「村山館」となるが、数年後に再度、**大友屋**が買い取った。



・旅館 林蔵

時期：昭和初期～平成 23 年

廃業理由：当主死亡・転出

場所：伝蔵・久兵衛の間

人別：八鍬 林蔵

備考：初代林蔵は**大蔵鉦山・番所峰の番人**をし、2代目は永松鉦山や大蔵鉦山の役人を務めた。玄関には番所峰の番所小屋に備え付けられていた当時の**「突棒・袖絡・刺又」**が飾られていた。



・ 最上屋旅館

時期：明治 42 年～大正 12 年頃

廃業理由：経営不振で商売替？

場所：現・勇蔵駐車場(寒河江衣料店跡)

人別：八鍬 長作

備考：明治 28 年に肘折に移住した八鍬長助が、温泉口で伊勢屋(上の蕎麦屋)を始めた。その長男・長作は家を継がず川連に塗師修行に出たため、弟の長吉が木地師を辞め、そば屋を継いだ。

長作は帰郷後、明治 42 年に弟とは別に地蔵講(温泉組合)に加入。

最上屋旅館を開業。大正 6 年、塗師の技術を生かした八鍬製椀工場も開業。しかし、第一次大戦後と鉱山閉鎖による不況により、旅館業も製椀業も経営が悪化。そんな折、実家を継いだ弟が温泉組合を脱会し、肘折から転出したため、旅館を廃業して実家のそば屋に戻った。

橋本屋	大穀屋	葛屋	藤榮屋	若松屋	松井屋	最上屋
柿崎吉助	柿崎兼藏	柿崎金兵衛	齋藤佐治兵衛	村井六助	松井貞哉	八鍬長作

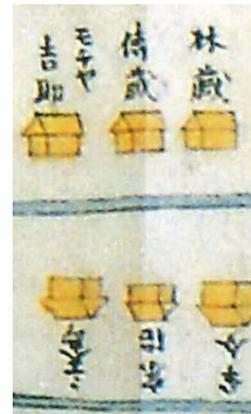
・ 橋本屋旅館

時期：明治 35 年～昭和 12 年

廃業理由：郵便局に専業

場所：現・旧郵便局舎

人別：柿崎 吉助



小松屋	高美屋	橋本屋
横山太兵衛	高山武右衛門	柿崎忠太

備考：文政 8 年、地蔵講に加入。江戸時代の地図では、現在の太兵衛の位置で餅屋をしていた。恐らく、永代橋の元に住んでいたもので、「ハシモト」と呼ばれていたのでしょう。

明治 35 年頃に三原佐左エ門家が転出した流れで、現在の旧郵便局の位置に引越します。もともと柿崎金兵衛が葛屋旅館を営業していた建物なので、そのまま橋本屋旅館を開業。

明治 44 年には **3 代目郵便局長** となり、郵便部屋を設置。昭和 12 年、旅館を廃業し、郵便局に専念するため郵便局舎を新築。現在のモダンな **旧郵便局舎** が完成したのです。

3 號にも渡って肘折温泉の旧旅館を紹介してきました。

知らない旅館も多かったのではないのでしょうか？